

□ 総会見学会参加レポート (新潟方面 6月9日(木)・10日(金))

全日本駐車協会事務局

新型コロナウイルスの関係で、3年ぶりとなった見学会、今回は新潟駐車協会さんのご協力をいただき、新潟方面の視察となりました。

久々の開催で、新型コロナウイルス感染者がなかなか減少しない中、参加者の集まり具合を危惧しましたが、木村会長他合計36名での見学会となりました。

■ 1 日 目

<視察>

新潟駅南口→鳥原パーキング→新潟駅万代口→万代シティ→ピア万代→柳都大橋→東堀9→東堀6→鍛冶小路→西堀ローサ→ホテルイタリア軒(宿泊)

13時30分に新潟駅南口貸切バス発着所集合。新潟駅は北口(万代口)側が栄えており、南口側は新たに整備された駅前で、バスターミナルなどがゆったりと配置されています。線路で南北が分断されていましたが、JR在来線の高架化で近々南北の道路が貫通するというので、南北の分断解消が期待されているとのことです。

1日目は、新潟駐車協会の富山会長がバスに同乗し、新潟市内を案内していただきました。

ちなみに、バスは、今回の見学会全体のコーディネイトをしてもらった新潟交通さんです。バスは、5分間で車内の空気がすべて入れ替わる換気システムを備えているなど、新型コロナウイルス対策を施してあるとのことでした。

最初の視察場所は、新潟市郊外約10km(旧黒埼町 現、新潟市西区)の「鳥原パーキング」。新潟市では都心部の渋滞緩和に寄与するため、パークアンドライドに取り組んでおり、鉄道駅で乗り換えるタイプと高速バス停で乗り換えるタイプがあり、鳥原パーキングは高速バスに乗り換えるタイプ。1985年開設当初は100台程度でしたが、需要が多く、2005年には400台程度に拡張しています。



案内をしてくださる富山会長



「鳥原パーキング」
中央に見えるのはバス停との連絡通路

ここからバスは新潟市中心部に戻ります。新潟市中心部は、旧来からの行政・商業の中心「古町地区」と「新潟駅周辺」、その中間に位置する「万代地区」の距離にして約2km。

まず、新潟駅周辺を視察。新潟駅は、南北の貫通道路に加え、北口(万代口)駅前ロータリーの再整備計画が進められ、新潟駅周辺は大きな変貌を遂げることになると思われます。

次に万代地区の中心「万代シティ」に。こちらは、新潟交通が手掛けた面的開発エリアで、伊勢丹他商業施設に加え、大規模な駐車場を計画的に整備しており、若者がにぎわう街になっているとのこと。

次に「古町地区」を視察。古町地区は、古町通を挟み、東堀通と西堀通で囲まれた旧来からの新潟市の中心地区。以前は「新潟に行くというのは古町へ行く」ということで、新潟市で唯一無二の行政・商業地区でした。昭和の時代には、同地区の駐車場不足が問題となり、駐車場整備の進んだ万代地区にお客様が流れたようで、その対策として、西堀通地下に第三セクターにより大規模な地下駐車場を整備し、地区駐車場の満空表示システムを立ち上げ、古町界隈の店舗と提携する駐車場ネットワーク(現在の全日駐規格汎用共通サービス券の利用につながる)を構築してきました。



西堀通地下駐車場の入口

一方で、新潟駅周辺及び万代地区の開発や郊外の大規模商業施設の開発もあり、三越をはじめ複数の百貨店が閉店しています。このような中、古町地区の活性化に向けて再開発等が進んでおり、また、新潟市では、新潟駅周辺、万代地区、古町地区をつなぐ都心軸周辺エリアを、新潟都心のまちづくり「にいがた2km」と名付けてまちづくりを進めていくとのこと。

1日目の視察は、古町地区の視察で終了。16時前に古町地区にある「ホテルイタリア軒」に到着しました。

<講演会>

新潟駐車協会の会員18名も加わり、講演会を行いました。

時間 17時15分～18時15分

演題 古町商店街と提携駐車場の歴史

講師 新潟駐車協会 副会長

新潟市古町七番町商店街振興組合 理事長
大塚 善紀 様

古町地区の繁栄の歴史、新潟都心地域の新潟駅方面への広がり、古町地区の駐車場不足とそれを補う対策(地下駐車場整備、提携駐車場ネットワークの構築等)、再開発等昨今の市街地活性化



大塚副会長によるご講演の様子

の動き等について、説明がありました。

<新潟駐車協会創立50周年記念式典、祝賀会・意見交換会>

新潟駐車協会のレポート(P22)参照。

祝賀会・意見交換会は、新型コロナウイルス感染対策として、着席スタイルで、席間にアクリル板を設置するなどしたうえで開催しました。新潟駐車協会のご配慮で、新潟の銘酒がふるまわれ、古町芸者衆の艶やかな舞もあり、楽しいひと時を過ごすことができ、中締め後に、古町花街散策を楽しまれた方もいらっしゃったようです。



古町芸者衆の艶やかな舞

※ご用意いただいた銘酒の数々

久保田 碧寿 純米大吟醸(朝日酒造)、麒麟山 金雲母(麒麟山酒造)、越乃寒梅 純米大吟醸 無垢(石本酒造)、越乃梅里 純米大吟醸原酒(DHC酒造)、今代司 純米大吟醸(今代司酒造)、真野鶴 大吟醸(尾畑酒造)、北雪 純米大吟醸 越淡麗(北雪酒造)、王紋 大吟醸 極辛19(王紋酒造)、酒米菊水 純米大吟醸(菊水酒造)、極上吉乃川 純米吟醸(吉乃川)、白瀧 上善如水 純米大吟醸(白瀧酒造)、鶴齢 大吟醸(青木酒造)、八海山 純米大吟醸(八海醸造)、緑川 純米吟醸(緑川酒造)、越の鶴 壺醸 純米酒(越銘醸)、田友 純米吟醸(高の井酒造)、千代の光 純米大吟醸 越淡麗(千代の光酒造)、かたふね 純米吟醸(竹田酒造店)、月不見の池 純米吟醸(猪又酒造)、謙信 純米吟醸(池田屋酒造)

2日目

ホテル出発→越後一宮彌彦神社→株式会社諏訪田製作所→魚のアメ横・寺泊(昼食)→鉄道のまち・新津鉄道資料館→新潟市内今代司酒造→新潟駅南口→新潟空港

8時バス出発。越後一宮彌彦神社(西蒲原郡弥彦村)へ。現地に向かう途中、空模様が怪しくなり、彌彦神社到着時には強い雨に打たれたものの、本殿に近づくにつれて小降りとなりました。彌彦神社の御祭神は天照大御神の御曾孫の天香山命(あめのかごやまのみこと)で、創建から2400年以上の歴史を有するとされる神社で、雨に濡れた社殿が荘厳な雰囲気を醸し出していました。



荘厳な佇まいの越後一宮彌彦神社

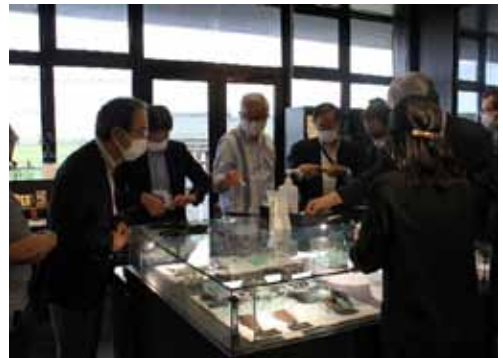
次に、三条市へ。三条市は鍛冶技術の地場産業が盛んなところで、高級爪切りを大ヒットさせた(株)諏訪田製作所を訪問、「SUWADA OPEN FACTORY」の見学を行いました。手作業による熟練の技に感動したのか、アウトレット

商品で通常よりお安いですという言葉に背中を押されたのか、皆さん財布(カード)のひもが緩み、1本6,7千円~1万数千円の爪切りを複数購入される方もあり、お見送りの際、ファクトリーの方から、「本日より一日分の売上げを達成させていただきました。ありがとうございます。」とお褒めの言葉をいただき、昼食会場である「魚のアメ横 寺泊(長岡市)」に向かいました。

「魚のアメ横 寺泊」で、新鮮な魚尽くしの昼食を堪能し、魚介類のお土産を購入、鉄道のまち新津の鉄道資料館に向かいました。

新津(旧新津市、現新潟市秋葉区)は、JR信越本線・羽越本線・磐越西線が交差する鉄道の要衝として発展、首都圏で運行するJR車両を製造する工場もあり、古くから鉄道の町として親しまれてきたところ。資料館では、鉄道の歴史を振り返ることができる展示品等が盛り沢山で、少し古びた感じもあり、懐かしい気分に入った方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

鉄道資料館を後にして、本見学会の最終視察場所、新潟駅に最も近い造り酒屋「今代司酒造」の酒蔵を訪問。今代司酒造は1767年創業で、歴史のある建物の中で、酒造り工程を見学。16時過ぎに新潟駅に到着、新幹線組はこちらで解散し、バスは新潟空港へと向かいました。



試し切りをしながら品定めに余念がない皆さん



リアルな運転シミュレーターに皆さん夢中



蔵の方から酒造りの工程を伺いました